

## バスケットボールユニフォームの変遷

### History of basketball jerseys

1K07B072-3

楠原 志津子

指導教員 主査 倉石 平 先生 副査 石井 昌幸 先生

#### 【目的】

スポーツにおけるユニフォームとは基本的に運動しやすいよう軽量で動きやすさに富んでおり、それぞれの競技の特性によって形や素材はさまざまである。バスケットボールにおけるユニフォームは創始当初より、めまぐるしく展開される激しいスポーツの特性のため、判断のしやすさを重点的につくられてきた。ユニフォームに関する規定についても国内外問わずそれぞれの規定がなされ、それに基づいてユニフォームが着用されている。昨今のバスケットボールユニフォームの主流である肩に余裕をもたせたシャツに、膝をこえる長さのルーズなパンツというシルエットを見てわかるとおり、ファッション性に富むなど他の競技には見られない特徴を持っている。そのバスケットボールユニフォームの変遷を辿り、その背景とスポーツメーカーがどのようなコンセプトを持ってユニフォームづくりをするのか、これからバスケットボールユニフォームがどうなっていくのかを明らかにすることを目的とする。

#### 【方法】

国内外でバスケットボールユニフォームを生産している、株式会社アシックス、株式会社ゴールドウィン、株式会社ナイキジャパン、株式会社デサント、ミズノ株式会社にインタビュー調査、およびユニフォーム関連資料の送付を依頼した。うちゴールドウィンとナイキジャパンにインタビュー調査を行ない、残りの3社から資料を送付いただいた。

#### 【結果】

バスケットボールユニフォームは大まかに分けて1980年代の上下ともにタイトなシルエットから、1990年代には同じく上下ともにルーズなシルエットへ変化しており、さらに最近開催された2010年FIBAバスケットボール世界選手権での数チームにて、シャツはタイトでパンツはルーズなAラインのシルエットに変化していること

がわかった。このユニフォームの流行は2007年頃のNCAAが始まりだとされており、アメリカがユニフォームの流行の発信地であることがわかった。アメリカでの流行が日本に伝わるのは5年ほど間があるとされている。素材についても変化が見られ、アシックス社による日本代表ユニフォームを例にとると、2005年から2010年にかけて約30%の軽量化に成功したことが分かった。また新たにコンプレッションウエアの開発・普及も進み、ユニフォームと重ね着をするレイヤードスタイルが最先端の着こなしであることが分かった。

#### 【考察】

1980年代のタイトなスタイルから1990年代のルーズなスタイルへの変化は、マイケル・ジョーダンをはじめとするスター選手の活躍による流行が大きな要因の一つだと考えられる。また、バスケットボールを支えるアフリカ系アメリカ人のHIP-HOP文化によるものも大きいと考えられる。多くの黒人アスリートの活躍とその文化が、あこがれを抱かせ、流行を生み出したのではないだろうか。

1990年代から現在のAラインシルエットのレイヤードスタイルへの変化は、ユニフォームの機能性を重視したメーカーの商業化の波によるもの大きいと言える。メーカーは世界選手権やオリンピックなどの大きな大会の開催に合わせ、新たなユニフォームを発表して流行を生み出す先駆けとなっている。今後は今までの流れの通り、2010年の世界選手権で見られたAラインシルエットにコンプレッションウエアを重ねるレイヤードスタイルが主流となっていくことが考えられる。コンプレッションウエアをはじめ、ソックスにもみられるように、バスケットボールのユニフォームは比較的自由度が高く、スター選手やメーカーの発信による流行を踏まえた上で個人の好みによる着こなしが可能となるのではないだろうか。